

# 平成26年6月の「供給レポート」

## ヒラタキクイムシ被害について



ヒラタキクイムシは熱帯及び亜熱帯各地と、室内では寒帯まで分布する世界的な乾材の害虫です。日本では沖縄、小笠原から北海道に至る全土に生息しています。

平成15年7月から施行された「シックハウス対策に係る法令」等により、合板や建材のホルムアルデヒド総量等が規制された時期から各地域で相当量が発生しています。

合板などにクイムシが発生する原因としては

① 原木・製造段階 ② 流通段階 ③ 施工段階・生活段階 において。

原木・製造段階については、合板は加工時に150～175℃の高温処理をするので、万一虫がいても行程中に完全に死んでしまいます。

流通段階と施工段階・生活段階 についてですが、どの段階で食害にあったのかを立証するのが難しく、また、施工後の持ち込み家具等から、そして、入居後虫が飛来して食害する可能性もあります。

「住宅の品質確保の促進等に関する法律」では、ヒラタキクイムシは、「防虫処理工事」の中で「軸組、耐力壁等の防虫処理を行った部分は、シロアリ、ヒラタキクイムシ等の食害により、損傷等が生じてはならない。なお、これらの食害を完全に防止することは困難。」として、保証期間は2年間となっていて、「瑕疵担履行法」の保証対象外です。

建材の安全基準が高められたことにより、人に対して安全な建材のために薬剤効果を以前のものより軽減されているので、虫に対しても安全になっています。

ヒラタキクイムシの発生の主な原因は、安全な建材を使用する結果生じたものです。

(2014年5月1日 大阪木材仲買協同組合仲買たより記事より抜粋)



## 京都駅そばに天然温泉ホテル — ハトヤ観光開業

### 内装に地元産木材



宿泊・飲食施設運営のハトヤ観光は、京都駅近くにホテルを開業。上層階に天然温泉の大浴場を設けるほか、管内の内装に京都産の木材を多用したのが特徴です。

(2014年5月1日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 山火事頻発 警戒強める 入山増える時期 空気乾燥

### たき火やたばこ注意



山火事の出火原因（2013年） 総務省消防庁調べ 総数 2015 件  
たき火 28%、火入れ 17%、放火・放火の疑い 11%、たばこ 7%、不明・その他 37%

(2014年5月9日 日本経済新聞記事から抜粋)